

【（公財）東京都島しょ振興公社】の活用戦略を踏まえた課題と今後の方向性

活用戦略で定めた「団体の将来像」

団体が培ってきた町村や関係団体とのネットワークを生かし、交通・情報通信分野や産業・就業分野の事業の担い手として島しょ振興を推進

重要課題 ①

社会経済情勢の変化や町村の意向を踏まえた振興策の展開に向け、いかに既存事業のあり方を見直し、重点化を図っていくか

検討の状況や今後の方向性

【検討の状況】

- 人口推計や収支予測等、社会経済情勢を踏まえつつ、第5次中期実施計画を策定した。
- 本計画において、見直し・検証事項の進捗管理を盛り込んだ。

【今後の方向性】

- 特産品展示販売事業
 - ・アンテナショップの機能や運営のあり方、店舗リニューアルの必要性について検討
 - ・外部委託化などにより、通信販売の効率的な運営を図る。また、BtoB向けイベントやターゲットを絞った情報発信により、島しょ特産品取扱店の増加を図り、販路拡大につなげる。
 - ・ブランド化に向けた東京宝島事業の取組を踏まえ、特産品などの島しょ地域の魅力をPR
- ヘリコプター事業
 - ・離島間を結ぶヘリ・コプター事業(愛らんどシャトル)は、島民に欠かせない交通手段
 - ・引き続き、運航支援を行うことで、安全かつ安定的な運航を確保していく。

【（公財）東京都島しょ振興公社】の課題と今後の方向性

重要課題②

【ヘリコプター事業における、より利便性を高める運航方法などの検討】

検討の状況や今後の方向性

【課題と検討の方向性】

- ヘリコプターは、離島、特に小離島での交通手段として重要な役割を果たしている。
- 機材、人員、地理的条件等の制約の中で、各町村の意向を踏まえ、より高い利便性・効率性を実現していく。

【現在までの取組】

- 三宅島のヘリ発着場を村営ヘリポートから三宅島空港へ移転
- 島民割引運賃の導入により、利用者増が見込まれる。
- 真に必要とする島民が搭乗しやすくする仕組みを整えるため、2019年6月より、キャンセル時期によって差を設ける新キャンセル料金体系を導入

【今後の方向性】

- 現在運航しているヘリ2機のうち1機について、機体更新の時期（就航より18年）を迎えることから、2019年度より、公社、都、町村、運航事業者等による検討を開始
- 回転翼機は、国の機体購入費補助の対象外であるため、都は国への提案要求を予定。公社は、都と連携を強め、各町村の意向の取りまとめ役を果たしていく。

